

教会

「ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。」(マタイの福音書 16:18)

ギリシヤ語の「エクレシア」(教会)はある目的のために呼出され集められた人々の集団または集りを意味している。新約聖書ではこのグループは神の民、つまりキリストのメッセージを受入れ、その人生をキリストにゆだね、神の国の国民として(エペ2:19)神を礼拝するという目的のために集まった人々の集団または共同体を指している。「教会」ということばはキリストに従う人々の地域の集団(マタ18:17, 使15:4)と、普遍的教会つまりキリストに本当に従う人々の世界的な共同体(マタ16:18, 使20:28, エペ2:21-22)の両方を意味する。

(1) 教会は神の民(1コリ1:2, 10:32, 1ペテ2:4-10)とされている。それは主イエスの犠牲的死によって備えられた罪の赦しと新しいいのち(1ペテ1:18-19)を受入れて霊的に救われ、きよめられ(霊的に聖くされた)、神の目的のために取分けられた人々のことである。教会の一員になった人々は基本的にこの地上では巡礼または旅人で、その目的地はこの地上にはない。天にある、より優れた家(ヘブ11:13-16, 13:12-14)に向かってひたすら歩き続けるのである。そして地上にいるときには何よりも神との個人的関係を深め、神を代表し、あらゆることを通して神をあがめる共同体と一つになるように努力する(1ペテ2:5, →ヘブ11:6注)。

(2) 教会はこの世界から神の国へ「呼出された」(《ギ》エッカレオー)人々によって構成されている(→「神の国」の項 p.1654)。教会に定められたキリストの基準によれば、教会は腐敗した慣習や生活様式(世間では一般的であっても)からは離れなければならない。そのためには個人的にも犠牲を払いながら神が聖書の中に示された規準に沿ってひたすら前進することが必要である。霊的にきよく神の目的のために自分を整え続ける人々には、その報いとして神を父として持つことが許される(Ⅱコリ6:16-18, →「信者の霊的聖別」の項 p.2172)。

(3) 教会は神の宮であり、聖霊の宮である(→1コリ3:16注, Ⅱコリ6:14-7:1, エペ2:11-22, 1ペテ2:4-10)。これは神の臨在が弟子たちの間にあり、教会という共同体は、神が人々にご臨在を現したいと願っておられるところという意味である。したがって教会の人々は世俗的で不道德な行動、神のことばの基準に合わないものをみな避けなければならない(→「聖化」の項 p.2405)。

(4) 教会はキリストのからだ(1コリ6:15-16, 10:16-17, 12:12-27)、つまりキリストがご自分を現し、目的をこの世界で実現するための生きた霊的有機体である。これは、教会員ひとりひとりがからだのかしらであるキリストと生きた積極的な結びつきをしていなければ本当の教会は存在しないという意味である(エペ1:22, 4:15, 5:23, コロ1:18)。からだの部分部分である教会員は一致して働き、だれもが同じように重要であることを認めてそれぞれが神から与えられた役割を果さなければならない(→1コリ12:12-27)。

(5) 教会はキリストの花嫁である(Ⅱコリ11:2, エペ5:22-27, 黙19:7-9)。これはあらゆる時代の主イエスに忠実に従う人々のことである。この結婚のたとえでは、キリストが教会に対して持たれる愛と親密さとともに、教会がキリストに対して献身をし忠実であることが強調されている。

(6) 教会は霊的共同体(《ギ》コイノニア)で、神を愛し礼拝するという共通の関係をもち共通の関心と目的を持つ信仰者のグループである(Ⅱコリ13:13, ピリ2:1)。その人々は自分たちの中に生き、自分たちを通して働いておられる神の御霊をともに体験しているので(ルカ11:13, ヨハ7:37-39, 20:22)、御霊の一致を持つことができる(エペ4:4)。また神のメッセージを広め神の目的を実現するための力を与える聖霊の

バプテスマ(使1:5, 2:4, 8:14-17, 10:44, 19:1-7)を受けることができる(→「聖霊のバプテスマ」の項 p.1950, 「聖霊の働き」の表 p.2187)。キリスト者の交わりは互いに愛し合い配慮に満ちた生活をする事である。それは外部の人にもわかるような生活である(ヨハ13:34-35)。

(7) 教会は霊的奉仕(《ギ》ディアコニア)をする。それは聖霊によって与えられた種々の賜物(《ギ》カリスマ)を通して行われる(ロマ12:6, 1コリ1:7, 12:4-11, 28-31, エペ4:11)。御霊の賜物は神をあがめ、教会の中にいるほかの人々を霊的に建上げ励ますために神から与えられた特別な能力である(→「御霊の賜物」の項 p.2138, 「聖霊の賜物」の表 p.2096)。

(8) 教会は霊的戦いにかかわっている軍隊である。この軍隊は地上の武器は使わないけれども、「御霊の与える剣である、神のことば」(エペ6:17)など御霊の武器と武具を使って戦う(エペ6:10-17)。つまり教会はサタンとその悪霊の勢力と罪とに対する霊的戦いをしているのである(→「神の国」の項 p.1654)。教会を満たし力を与える御霊は戦士のように、生きた力強い神のことばを最大の武器として用いられる。みことばは人々をサタンの支配から解放し、神に逆らうこの反抗的な世界のあらゆる力に勝つことができる(使26:18, エペ6:10-18, ヘブ4:12, 黙1:16, 2:16, 19:15, 21, →「神の国とサタンの国」の表 p.1711)。

(9) 教会は「真理の柱また土台」である(1テモ3:15)。それは土台が建物を支えるように、真理が建てられしっかりと立ち続ける土台だということである。教会は真理を掲げ続け、真理の意味を変えたり曲げたり、あるいは真理ではないものを提供しようとするにせ教師やほかの人々から真理を守り防がなければならない(→ピリ1:16注, ユダ1:3注, →「にせ教師」の項 p.1758)。

(10) 教会は未来に希望を持っている人々である。この希望の中心はキリストがご自分の民のために再び来られることである(→ヨハ14:3注, 1テモ6:14, 11テモ4:8, テト2:13, ヘブ9:28, →「聖書的希望」の項 p.943, 「携拳」の項 p.2278)。

(11) 教会は不可視的であり可視的である。(a) 不可視的教会とは、キリストに対する心からの積極的信仰によって結び合された、世界中のキリストに従う人々全体のことである(→「信仰と恵み」の項 p.2062)。

(b) 可視的教会とは、霊的反对を乗り越えて最後まで耐え忍ぶ、キリストに忠実に従う人々からなる地域の集団のことである(黙2:11, 17, 29, →黙2:7注)。けれども地域教会にはキリストに従うと言いつつ実際には従っていない人々もいる(黙2:2)。そのようなにせの信仰者は聖書の中では「落ちた」(黙2:5)、霊的に「死んでいる」(黙3:1)、「なまぬる」いなどと言われている(黙3:16, →マタ13:24-25注, 使12:5注)。

(12) 教会は、主イエスは神の子、世界の救い主であるという大胆な告白と宣言(可能な限りあらゆる方法でメッセージを伝えること)である固い岩の上に建てられている。キリスト・イエスが教会を建てられる「岩」は個人(マタ16:18のペテロ)のことはない。それは全世界に向けて絶えずキリストを告白しキリストについてのメッセージを繰返し伝えることで、キリストの教会を拡大し前進させていくことである。教会は地上で神の目的を達成し、サタンと罪によって一度は失われた霊的領域を取戻す働きを進めていく。その働きを止められるものは何もない(→マタ16:18注)。

この福音書は、主イエスの生涯と、その死と復活の物語、そして使徒の働きに中心を置いて書かれています。この福音書の目的は、人々にイエスを救いの主として告白し、彼を信じて従うよう勧めることです。この福音書は、人々にイエスの神性を悟らし、彼を神の子として告白し、彼を信じて従うよう勧めることを目的としています。この福音書は、人々にイエスの神性を悟らし、彼を神の子として告白し、彼を信じて従うよう勧めることを目的としています。

この福音書は、主イエスの生涯と、その死と復活の物語、そして使徒の働きに中心を置いて書かれています。この福音書の目的は、人々にイエスを救いの主として告白し、彼を信じて従うよう勧めることです。この福音書は、人々にイエスの神性を悟らし、彼を神の子として告白し、彼を信じて従うよう勧めることを目的としています。この福音書は、人々にイエスの神性を悟らし、彼を神の子として告白し、彼を信じて従うよう勧めることを目的としています。